

## CONTENTS

秋季企画展 解剖図の世界 -江戸から現代へ-	2
資料館展示品から	3
冬季企画展 津山藩の絵師鋏形家と洋学者	4
津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム	5
友の会のページ 史跡見学会報告	6
NEWS FILE	7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

# 洋学 資料館

No. 17

February, 2016

眼下に津山城下を望む高台に、津山藩最後の藩医・芳村杏齋よしむらの墓所があります。杏齋は、大庭郡止福田村（現在の真庭市蒜山上福田）の医師芳村泰治の長男として生れ、青年期には遊学の旅に出て江戸や上方、さらに長崎で医学を学びました。一度郷里に戻って開業しますが、明治維新後には再び大阪に出てオランダ人医師ボードウィンに師事。その翌年の1869（明治2）年に久原洪哉らの推挙で津山藩医に抜擢されるものの、わずか2年後に廃藩置県を迎えたのでした。杏齋は後に田町で開業し、1905（明治38）年に70歳で亡くなりました。（津山市小田中）



津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING





資料館展示品から

日本最初の人体解剖

山脇東洋著『蔵志』



秋季企画展報告にもありますが、平成27年は日本で初めての解剖が行われてから260周年に当たります。その際の記録がこの『蔵志』です。解剖が行われてから5年後の1759(宝暦9)年に出版されました。

解剖の記事というと杉田玄白の『蘭学事始』が有名です。玄白が参加した際の解剖では医師が執刀するのではなく、医学の知

識は無いが、幾度も解剖をしたことがある老人が担当し、それぞれの臓器を切り分けて示した、とあります。『蔵志』の著者山脇東洋の時はどうだったのでしょうか。

『蔵志』中に「屍を庁前の蓆席の上に置き屠者をして之を解かしむ」とありますから、やはり医師が執刀していないことが分かります。また、本来12本ある肋骨の数を「9本」としていますが、肋骨の最上部は

平成27年度秋季企画展は、京都の医師山脇東洋が、1754(宝暦4)年に日本で初めて公の許可を得て人体解剖を行ってから260周年に当たることを記念して「解剖図の世界-江戸から現代へ-」を開催しました。本展は、一昨年に国立科学博物館で開催された「医は仁術」に出陳された資料の中から解剖図に限定して借用、展示。さらに、川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部医療福祉デザイン学科の協力を得て、現代の「解剖図」-メデイカルイラストレーション-も展示し、江戸時代から現代に続く解剖学の発展をご紹介しました。

東洋が行った解剖の記録として『蔵志』が出版され、従来信じられてきた「五臓六腑図」が否定されました。当時の医師たちは疑義を確かめるため、各地で解剖を行っています。『蔵志』出版の12年後、1771(明和8)年に二番目の解剖書『解屍編』が公にされました。しかし、この図は、まだ五臓六腑的な描き方をされていました。『解屍編』から3年後、『解体新書』が出版されます。この解剖図は西洋書の解剖図を模して描かれ、これにより、解剖図は漢方医学の「陰陽五行説」に基づく五臓六腑の世界から脱却し、実証的な解剖図が描かれるようになります。

その後、解剖図は単なる実見図ではなく、いろいろな臓器の生理的機能への探求が見られるようになり、1819(文政2)年に作成された「解剖存真図」は写実的にも内容的にも、江戸時代の解剖図の中でも最も充実したものでした。そして、幕末から明治時代にかけて、医学以外の分野にも解剖学の知識は波及していき、人体内部を描いた浮世絵や精巧な生き人形等が作られたのです。

今回の企画展では、津山市の博物館施設として初めてテレビ・ラジオで広報を行った反響が大きく、CMを見て初めて資料館の存在を知ったという方が多数おられました。「津山洋学資料館」の名を広く知っていただく上でも、とても意義のあった企画展でした。

最後になりましたが、ご協力いただきました関係者の皆様には誠に世話になりました。改めてお礼申し上げます。

鎖骨の陰に隠れ、下部2本は脇にあるため、正面からは確認しづらいこと、「心は肺の中間に懸り(中略)上は氣道に系り下は横隔に向かふ」とあることから、少し離れた正面足元から観察しており、この段階では臓器の様子を間近には見えていないと推測できます。

しかし、心臓や背骨の図があることや、「右肺は壁二つ(3葉左肺は壁一つ(2葉)」と記されていることから、切り取られた臓器を手にとって観察することができたのだろうと考えられます。この時の方式が、玄白たちの参加した1771(明和8)年の解剖の時期まで受け継がれていたのでしょうか。その後、西洋医学への理解が深まるにつれて、医師が執刀する形に変化していきます。1792(寛政4)年に宇田川玄随が津山で初めての解剖を行った時には、玄随が解剖の指導をしたと思われる。

『蔵志』の中で、東洋はそれまで信じられてきた「五臓六腑図」を「妄作」といい、それに基づく医学を「邪詭の態」と批判しました。また、東洋が西洋解剖学書を所蔵していたと推測できる箇所があり、今回の観臓でその疑問も解けたと述べられています。この書が日本の医学が実証的・科学的なものに踏み出した第一歩と言えるでしょう。

文：学芸員 乾康二





岩下先生 下山先生

冬季企画展  
津山藩の絵師  
鍛形家と洋学者

会期：平成27年10月17日（土）  
平成28年2月7日（日）



北尾政美画「野禮織的爾之図」  
(森島中良編『紅毛雑話』)

「江戸一目図」で名高い鍛形蕙齋（1764～1824）は、はじめ北尾政美の名で浮世絵師として人気を博し、1794（寛政6）年に31歳で津山藩の絵師として召抱えられました。蕙齋の画業への評価とともに特筆すべきなのが、文人や学者たちとの交流です。『解体新書』翻訳メンバーの桂川甫周の実弟である森島中良が、蘭学書『紅毛雑話』を著した際にはその挿絵を描いたほか、津山藩医の宇田川玄真とも交流した記録があります。

さらに蕙齋の跡を継いだ赤子（1800～1855）は、1854（嘉永7）年のペリー再来航に際し、藩命で洋学者の箕作秋坪、宇田川興齋とともに浦賀や神奈川に偵察に赴きました。各地に伝来する黒船を描いた絵巻には、赤子が描いたものや、それらを模写したものがあり、黒船をめぐる学者たちの情報交流の様子が垣間見えてくるのです。

本展では、こうした「洋学者たちとの交流」という側面から、鍛形家初代蕙齋と2代赤子について、約30点の資料を展示してご紹介しました。観覧された方々は、じつくりと作品に見入っていました。また、洋学者と絵師との知的ネットワークの面白さへの感嘆の声なども聴かれました。

最後になりましたが、本展の開催にあたっては、資料の出版をはじめ、多くの方からお力添えを賜りました。心よりお礼申し上げます。



津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム

ペリー来航絵巻「金海奇観」をめぐる人々とその思い

— 鍛形赤子、箕作阮甫、箕作秋坪、宇田川興齋 —

基調講演 講師：明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授 岩下 哲典 先生  
対 談 明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授 岩下 哲典 先生  
洋学史学会理事・津山洋学資料館元館長 下山 純正 先生

主催：公益財団法人上廣倫理財団・津山市教育委員会／後援：文化庁・岡山県教育委員会

12月19日（土）、津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラムを開催しました。これは、公益財団法人上廣倫理財団の支援を受けて開催しているもので、今年で5回目を迎えます。今回は、明海大学教授の岩下哲典先生を講師にお迎えし、ペリー来航を描いた絵巻物「金海奇観」をテーマにお話いただきました。

「金海奇観」を編さんした大槻磐溪は、蘭学者・大槻玄沢の次男で、仙台藩の儒者を勤めていました。ペリー来航時には藩命で神奈川へ偵察に赴いており、現地で箕作秋坪や鍛形赤子とも交流しています。そのためか「金海奇観」には、赤子の描いたペリー肖像画なども貼り込まれているのです。岩下先生は、絵巻に描かれた絵をもとに、学者たちの情報交流の様子や、アメリカと日本の交渉の経緯などを次々と解き明かされ、参加された方は引き込まれるようにしてお話に聴き入っていました。

基調講演に続いて、岩下先生と下山純正先生による対談も行われました。赤子が磐溪に絵を提供した背景には、大槻家と宇田川家、箕作家との長い交流の歴史があることなど、津山との関わりを中心に話を展開されました。

また、今回は初めての試みとして、岩下先生のご提案で会場の一角に「金海奇観」の複製を展示しました。参加された方は、ご講演や対談でお話された個所など示しつつ、興味深そうに見入っていました。



第28回 友の会史跡見学会

# 月田に残る在村医たちの足跡を訪ねて

11月29日(日)、友の会の史跡見学会を実施しました。今回は、下山純正元館長を特別講師にお迎えし、真庭市月田に残る在村医たちの関係史跡をめぐりました。

月田川岸に位置する月田は、近世には勝山藩領に属し、勝山から東条へ向かう東条往來が通っていました。津山から勝山を経てバスで約1時間、最初の目的地である佐野篤太郎屋敷跡に到着しました。篤太郎は山田方谷の門人で、明治期に県議会議員や月田村長、勝山町長などを歴任した人物です。ここでは篤太郎の令孫で、現ご当主の譽さんがご説明をしてくださりました。そこからは歩いて次の目的地、佐野隆蔵墓所へ向かいました。佐野隆蔵は、大坂の



▲佐野篤太郎屋敷跡  
佐野譽さんにお話しいただきました。



▲佐野隆蔵墓所

華岡流医塾・合水堂の門人録に、1813(文化10)年に入門したことが記録されています。しかし、具体的な活動などについては分かっておらず、下山先生が長年調査を続けて、昨年ようやく墓所や屋敷の所在地を確認することができたのです。町並みを見下ろす高台にあるお墓にお参りし、隆蔵が入門後わずか15年でこの世を去ったことを聞いて、参加された皆さんは感慨深そうにされていました。



▲宮島晁民墓所  
宮島美穂さんにご案内いただきました。

さらに道なりに進んで、最後の見学地、宮島晁民の屋敷跡へ向かいました。宮島晁民は、江戸時代の終わりから明治時代の初めにかけて活躍した医師で、現在でもその蔵書が残されています。これらを見ると、漢方だけでなく蘭漢衷中の華岡流、さらに蘭方も学んでいたことが分かります。ご後裔の宮島美穂さんにご案内いただき、墓所もお参りしてから月田を後にしました。



▲佐野隆蔵屋敷跡を探すワークショップ

## NEWS FILE 適々齋塾「姓名録」複製を受贈



12月25日(金) 公益財団法人山陽放送学術文化財団から当館へ、緒方洪庵の開いた適塾の門人録「姓名録」(複製)が寄贈されました。これは12月に岡山日蘭協会の協力を得て同財団が開催したシンポジウム「百年先の日本を見据えた男 緒方洪庵」に講師としてお越しだった大阪大学医学部医学史料室の米田該典先生から「財団を通じてしかるべき施設へ寄贈を」とお申し出をいただいたものです。



## オムニバス講演会開催

1月31日(日)、恒例となった資料館職員によるオムニバス講演会を開催しました。今回は、数という側面から洋学を考えてみようという「数にまつわるはなし」を統一テーマにしました。3人がそれぞれ(大倉、本(田中)、星(乾))という個別テーマを設けて日頃の研究成果を報告。参加された方から、身近なテーマで分かりやすく、面白かったとのご感想をいただくことができました。今後の研究の励みになりました。



## 講演会「新たに発見された4枚の湿板写真をめぐる!! 眞作阮甫の実像に迫る」開催

2月14日(日)、当館元館長の下山純正先生を講師にお迎えし、講演会を開催しました。一昨年、下山先生が眞作家からお預かりして調査を進めている史料の中から、眞作阮甫の肖像写真4枚が新たに発見されました。これまで阮甫の肖像は2枚知られていましたが、その写真では切り取られて分からなかった周辺の様子が見え、新発見の写真では確認できるのです。そうした部分から阮甫の晩年の様子や、撮影の時期が亡くなる年の夏で、場所は自宅と考えられる事などを、聴講者の方と一緒に読み解いていきました。さらに東京大学史料編纂所の谷昭佳先生から得た写真技術についてのご教示や、眞作家をめぐる人間関係をもとに、撮影者は川崎道民の可能性が高いと指摘。最後に阮甫が著書『改正増補蜜語箋』で写真(ダゲレオタイプ)を「印象鏡」と訳したように、写真が阮甫の印象をよく伝えていると話してお話をまとめられました。参加された方は相槌を打ちながらお話に聞き入っていました。



# INFORMATION

## 平成28年度の催し物(予定) 企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「日本とロシア -箕作阮甫・秋坪の対露交渉-」</li> <li>23 第71回文化講演会「出島における黒坊について」 講師：長崎大学非常勤講師 イバル・田中・ファンダーレン先生</li> <li>23 友の会総会 (休館日：18・25日)</li> </ul>	2/20~ 箕作阮甫・秋坪の対露交渉 日本とロシア ~6/19
5月	(休館日：2・6・9・16・23・30日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>4~5 友の会創立35周年記念研修バス旅行 (休館日：6・13・20・27日)</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「言の葉の海へ -オランダ語翻訳に挑む-」</li> <li>30 親子でヒンデローペンの作品づくり</li> <li>31 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：4・11・19・20・25日)</li> </ul>	7/2~ 言の葉の海へ オランダ語翻訳に挑む ~9月下旬
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の化学書からの再現実験教室 (休館日：1・8・12・15・22・29日)</li> </ul>	
9月	(休館日：5・12・20・21・23・26日)	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「生誕170年 箕作麟祥(仮)」 (休館日：3・11・12・17・24・31日)</li> </ul>	10月上旬~生誕170年 箕作麟祥 ~11月上旬
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「生誕180年 山田純造とその時代(仮)」</li> <li>友の会創立35周年記念祝賀会 (休館日：4・7・14・21・24・28日)</li> </ul>	11月下旬~ 山田純造とその時代(仮) 生誕180年 ~2月下旬
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会史跡見学会 (休館日：5・12・19・24・26・29~31日)</li> </ul>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員による研究報告会 (休館日：1~3・10・11・16・23・30日)</li> </ul>	
2月	(休館日：6・13・14・20・27日)	
3月	(休館日：6・13・21・22・27日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会



・・・刊行物のお知らせ・・・

■ 洋学研究誌「一滴」第23号を刊行しました。

目次

- 松平斉民、宇田川榕菴、大槻磐溪の絵図史料  
— 鞘絵「花魁」と「和蘭王国軍装図譜」の事例 —  
…野村正雄 (1)
- 文久の小笠原群島開拓に基づく地図と真景図  
— 藩主松平斉民の貼込帳に新種の地図も —  
…野村正雄 (9)
- 宮本周安「真真謔筆」— 補遺 — 吉田 忠 (29)
- 平成26年度企画展報告  
花、開く — 榕菴の植物研究 — (31)  
資料、モノ、がたり (39)  
新館開館5周年記念企画展 平戸松浦家伝来の至宝 (47)  
生誕190周年記念 箕作秋坪 (61)
- 資料紹介 中澤廣江宛て箕作秋坪書簡にみる三叉学舎  
…田中美穂 (78(20))
- 『錦窠先生通信録』の翻刻 - 乾ノ二 -  
…土井康弘 (96(1))  
全96頁 800円

### ご利用案内

- 開館時間/9:00~17:00  
(入館は16:30まで)
- 休館日/月曜日(祝祭日の場合はその翌日)  
祝祭日の翌日・年末年始(12月29日~1月3日)
- 入館料/

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※( )内は30名以上の団体料金です。  
※小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864  
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



- 交通のご案内
- JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- 中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分